

# 甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和6年2月5日(月)作成

校長 「進藤 雅一」 記述者 職名 教頭 「平沼 公香」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た・・・助け合う子ども・・・(情)
- ・つ・・・強い心を持った子ども・・・(意)
- ・の・・・伸び行く体の子ども・・・(体)
- ・こ・・・根気強く学ぶ子ども・・・(知)

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 子ども一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



## 1 全体評価

本校の学校評価は、次の7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートについては4段階評価で行っている。教職員自己評価においての「E：わからない」については、担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

### 5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

### 4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

### （1）教職員自己評価について

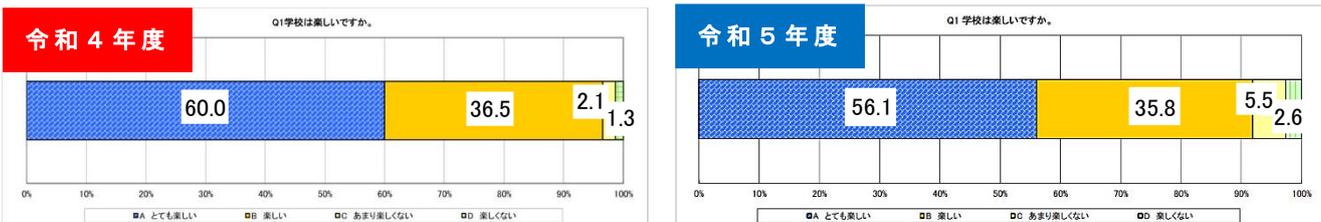
「すべては子供の幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標の具現化を目指し、笑顔あふれる楽しい学校の創造に向けて「チーム学校（チームドラゴン）」として協働し、研鑽を積んできている。

- ・子どもの意欲を喚起する授業づくりや学級づくりを目指し、校内研究を軸に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教える授業から学ぶ授業への転換に取り組んでいる。
- ・ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」が充実したものになるよう、学年ごとに工夫を重ねている。
- ・学習規律「明るく元気な竜の子15箇条」を基盤とした授業改善や生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図りながら進めている。
- ・6年間を見通した指導を目指し、全職員で全校児童のいのちを育み守るため、組織的な指導を行い、児童にとって安心・安全な学校生活につなげられるよう努めている。

今年度の教職員自己評価では、39項目中37項目で「A+Bの肯定的評価」が90%以上となり、教職員が日々、子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

## (2) 小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか。」の肯定意見が昨年度から 90% 台になっている。多くの児童が学校生活を楽しいと感じている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「だれとでもあいさつをしていますか」「清掃活動をしっかりしていますか」など、8 項目で昨年度より肯定的な回答が増えている。教職員の児童へのきめ細かな支援と学級集団づくりの積み重ね、児童会活動等の活発な取組、行動制限がなくなり活動の範囲が広がったことが要因として考えられる。今後も児童一人一人に対する日常的な見取りや Q U 調査、学級力向上アンケート等により、きめ細かな指導を継続していく。



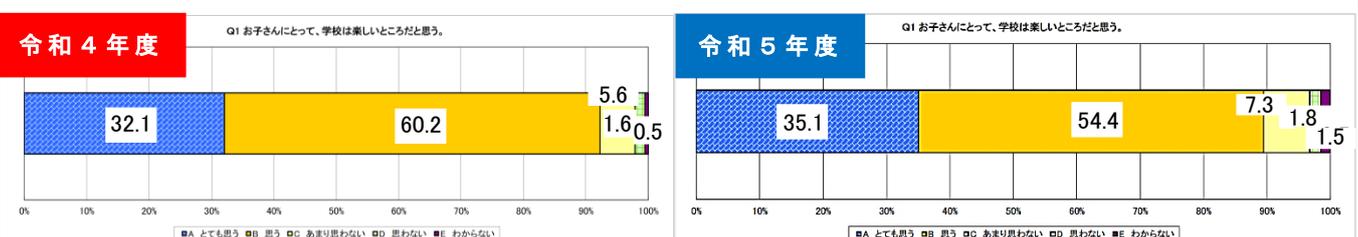
Q 学校は楽しいですか。(児童アンケート)

一方、「平日にまったく読書をしない」「スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを学習以外で、一日あたり 1 時間以上 3 時間以内使う」「平日 11 時以降に就寝する」と回答した児童の増加や「家の人と学校での様子を話している」「将来の夢や希望をもっている」と回答した児童の減少が見られる。学校における読書指導やキャリア教育について推進していくことと、今後も家庭生活については PTA 総会や学年総会等で話題にしたり、学校から配付する各種お便りにも載せたりして、家庭に協力を求めていく。

## (3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約 90% だった。昨年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。「お子さんの仲のよい友だちを知っている」「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいいますか」「お子さんのことで相談できる先生がいいますか」「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」など、13 項目の回答が昨年度よりも増加しているのに比べ、家庭学習や学校外での生活に関する肯定的な回答が減少している傾向が見られる。

PTA 総会や学年総会で、保護者の子育てに関する困り感を話題にしたり、情報交換する場を設定したりするなどの工夫により、学校と家庭が一体となって取り組めるようにしていく。



Q お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。(保護者アンケート)

## 2 観点ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標・学校経営について

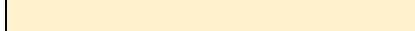
#### （1）達成状況について

学校教育目標や学校経営について、全教職員の肯定的な意見が見られている。学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。

一方、昨年度より、全項目でAの回答率が低くなっている。質の向上を求め、評価意識が高まってきているため、評価が厳しくなっていると考えるが、「特別支援教育の体制」についての課題が顕著になっている。支援体制の複雑化への対策を見直す必要がある。

番号	I 学校教育目標・学校経営について	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	53.1	46.9	0.0	0.0	36.7	63.3	0.0	0.0
2	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	62.5	37.5	0.0	0.0	46.7	50.0	3.3	0.0
3	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	56.3	43.8	0.0	0.0	43.3	56.7	0.0	0.0
4	あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	34.4	65.6	0.0	0.0	30.0	70.0	0.0	0.0
5	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	51.6	48.4	0.0	0.0	17.2	55.2	20.7	6.9

凡例



←前年度よりAの回答率が上がっている項目



←2年連続でAの回答率が下がっている項目

#### （2）改善策について

① コロナ禍以前の活動に戻しつつある中で、以前のような各種行事の実施には無理があると判断して精選や改良、教育課程の見直しを進めてきた。しかし、「質の向上＝時間をかけて取り組んだもの」の認識が依然として強く、何を求めるのかを根幹から検討し直す必要がある。現在、新学習指導要領で求められるカリキュラム・マネジメントについて、時間数の調整だけではなく、他教科や行事との関連を改めて見直し、来年度に向けた教育課程編成を行っているところである。これまでもPDCAサイクルを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を図ってきている。今後は、各自の意識向上やチーム学校として主体的な取組をさらに進めていけるよう、それぞれの業務の調整を図る。

② 引き続き、多様な子供たちを誰一人取り残すことがないように、特別支援コーディネーターを中心に、校内支援委員会やケース会議の効果的な運用に努める。本年度、対象児童が急増したことで、これまでの体制では対応しきれなかったと推察す

る。特別支援学級間や、特別支援学級と交流学級との間の連携が困難になる状況が増えていた。限られた教職員の中で、全校体制でより効果的な支援体制が組めるように努めてきているが、引き続き一人一人の子供たちのニーズに応じた合理的な配慮とその指導法について、教職員間の対応策の検討を重ねながら協働していく。

## Ⅱ 学校運営について

### (1) 達成状況について

全ての項目において肯定的な回答であり、多くの教職員が学校運営に主体的に関わっているといえる。設問1に関しては、毎回の訓練の振り返りから改善策を見だし、確認してきた。危機管理マニュアルの見直しを行い、来年度のスタートから活用する。

校務支援システムの活用や働き方改革を意識した取組は進んできていることがわかる。学校の特性上、時間外勤務が増える時期はあるが、継続して多くなる傾向のある職員に対しては指導を重ねている。以前の取組で求めてきた質の高さと新しい時代に合わせた質の高さへのアプローチの仕方について、組み合わせや切り替えをこれからも検討を重ね、進めていく。

学校徴収金について、口座振込に変更して2年になるが、滞納する家庭は減らないため、集金業務の効率化を図りきれていない。ただ、市教育委員会で給食費の督促に学納金も合わせていただけることになったので、大変ありがたい。新規登録作業は、学校でのデータ入力のため、年度末の登録作業は必要である。口座登録依頼と督促業務については今後も改善策を講じていく。

番号	Ⅱ 学校運営について 質問内容	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%	とてもそう思う 回答率%	そう思う 回答率%	ややそう思わない 回答率%	そう思わない 回答率%
1	あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	40.6	59.4	0.0	0.0	33.3	63.3	3.3	0.0
2	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	71.9	28.1	0.0	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
3	あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	65.6	31.3	0.0	0.0	63.3	36.7	0.0	0.0
4	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	78.1	21.9	0.0	0.0	76.7	23.3	0.0	0.0
5	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	43.8	53.1	3.1	0.0	32.1	67.9	0.0	0.0
6	あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	28.1	65.6	6.3	0.0	43.3	46.7	10.0	0.0
7	あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	31.3	65.6	3.1	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0

凡例


←前年度よりAの回答率が上がっている項目

←2年連続でAの回答率が下がっている項目

## (2) 改善策について

① 全ての項目において、肯定的な回答となっている。ただし、校内での連携にはさらなる改善が必要であると考え。他の項目において自己評価が高くなっていることを考えると、組織の中での取組を主体的に進めることに課題があると推察する。各主任を軸に業務の調整を進めてきているが、各教職員の能力は高いので、一人一人の活動（点）を学年・ブロック（線）や学校全体（面）としての活動へ高めていけるように、全体を俯瞰した取組を推進していく。勤務時間の調整もあり、これまで丁寧に行ってきた打合せや検討の機会を減らしてきたことも、ともに進めている実感を薄くした一因であるとも考える。これまで同様、管理職や他の教職員とコミュニケーションをとり、学校の雰囲気づくりを行うことはベースに置きながら、「チームドラゴン」として協働するために、業務に関する議論をさらに進め、子どもたちのために質の高い教育活動を提供できるように努めていく。

② 危機管理マニュアルに関して、3年前に「冊子は見づらい」という評価に対応して職員に配布するものは簡易的なものにしてきた経緯がある。しかし、保健関係や給食関係について、年々確認することが増えてきているので、やはり冊子タイプに戻していくということになった。危機管理マニュアルの改訂を年度内に済ませ、来年度から新たな運用ができるように準備しているところである。教職員に対する危機管理マニュアルの周知や訓練の実施をこれまで同様、着実に行う。

保護者アンケートでの「学校は安全管理に注意をはらっていると思う」の回答に例年「わからない」などの低い回答が10%程度あることから、引き渡し等のマニュアルや指導資料を配付するなど、家庭への発信を工夫してきた。「見ていない・知らなかった」という話題もPTAの会議でも聞かれるので、今後はメールでの資料配信も併せて行っていく。また、登下校対策は、支部の自主的な仕組みが整った学区であるため、支部の活動を支える形で進めてきている。今後も協働して進めていく。

② 教職員による校内研究では、ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業研究を行ってきた。今年度も、教職員一人一人の日々の教育活動につなげ、さらなる指導力向上につなげていくため、校内研究での取組を各学年・学級で具現化して取り組んできた。「分かる授業の創造」の一手段としてのICT活用であることを再確認し、今後も効果的な活用方法を探り、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善を進めていく。



### Ⅲ 学習指導について

#### (1) 達成状況について

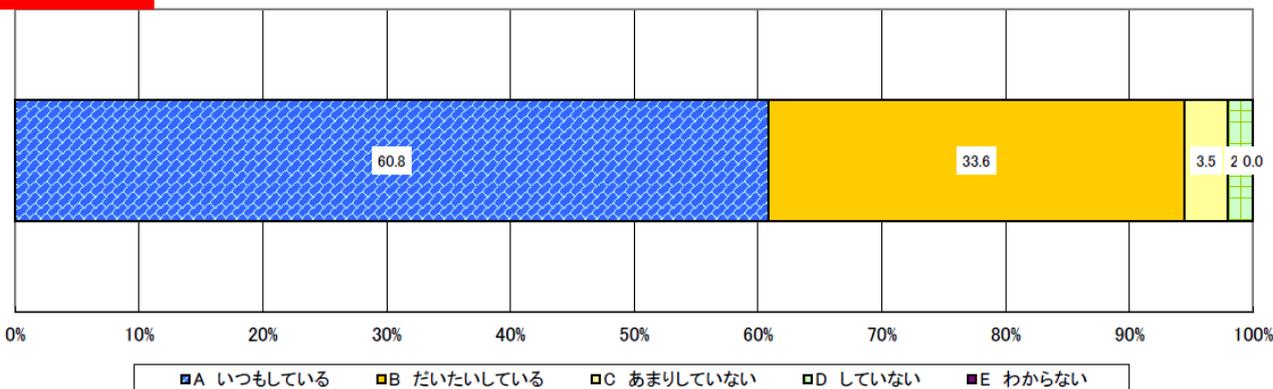
多くの項目において昨年度と比べて肯定的な評価は変わらないが、A評価の値が高くなっている。本校では、経験豊かなベテラン教員とやる気に満ち溢れる若手教員が学年内で協働し、授業力向上に努めている。校内研究を軸に、「主体的・対話的で深い学び」の実現や「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた授業の創造、ICTを効果的に活用した授業づくりについても模索してきているが、毎年、教材研究の時間の確保が課題となっている。また、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて（＝授業の評価規準）」の明確化を意識し、指導と評価の一体化に向けた授業づくりは定着してきている。今後も学級間格差が生じないように、学年主任を中心に各教科の指導内容と学習評価を再確認し、新学習指導要領が示す「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行っていく。

番号	Ⅲ 学習指導について 質問内容	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	40.0	60.0	0.0	0.0	42.3	57.7	0.0	0.0
2	あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	40.0	56.0	0.0	0.0	46.2	53.8	0.0	0.0
3	あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	32.0	68.0	3.6	0.0	34.6	65.4	0.0	0.0
4	あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	36.0	64.0	3.7	0.0	26.9	65.4	3.8	3.8
5	あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	37.5	62.5	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0
6	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	30.4	60.9	4.3	4.3	39.1	60.9	0.0	0.0
7	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	17.4	82.6	0.0	0.0	18.2	77.3	4.5	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、約90%の子供たち、約94%の保護者が肯定的な回答をしている。これは昨年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子がうかがえる。しかしながら約10%の子供たちがC・Dと回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。

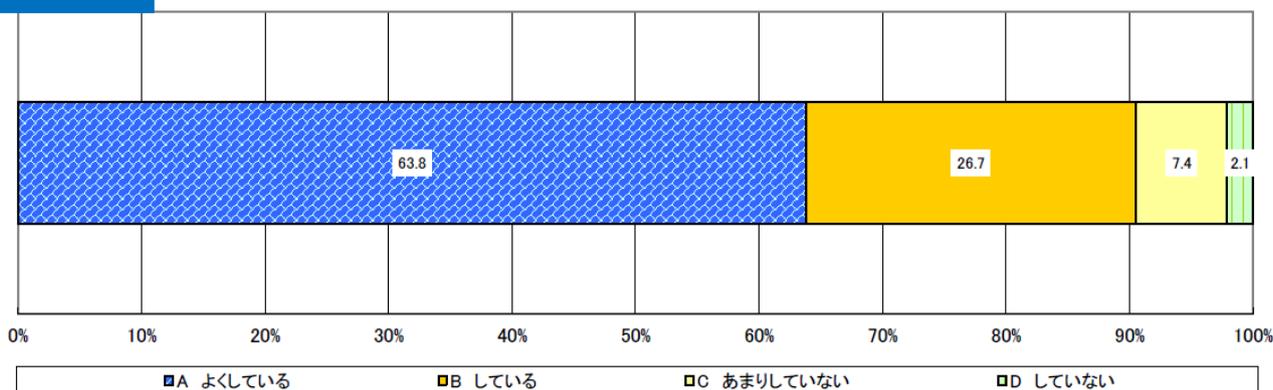
保護者

Q12 お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか。



児童

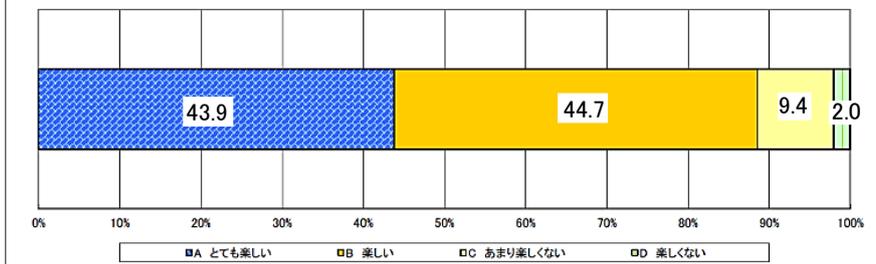
Q16 宿題を忘れずにしていますか。



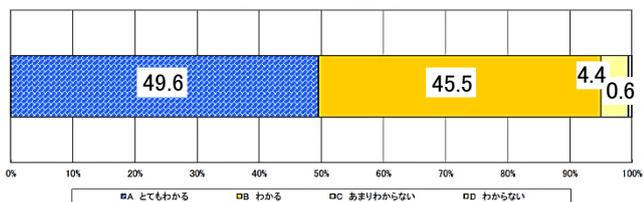
(2) 改善策

- ① 全体として、教職員の自己評価が高まったことは、子どもたちの「分かる・楽しい授業の創造」に繋がっていると考える。教員の授業力向上に向けて「個別最適な学び」だけに留まらず、「協働的な学び」を広げていくことについても引き続き取り組んでいく。
- ③ 「家庭学習の手引き」を学年総会の資料にも入れて周知してきた。各学年では自主学習の工夫をしているが、今後も個別懇談、学年総会、学年だより等を通して取組方法を紹介するなど、家庭との連携を深めながら、各家庭への啓発に努めていく。

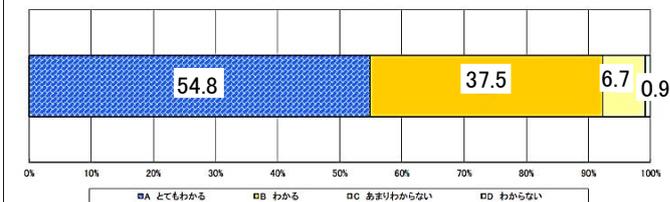
Q4 学校の授業は楽しいですか。



Q6 国語の授業の内容はわかりますか。



Q7 算数の授業の内容はわかりますか。



#### IV 生徒指導について

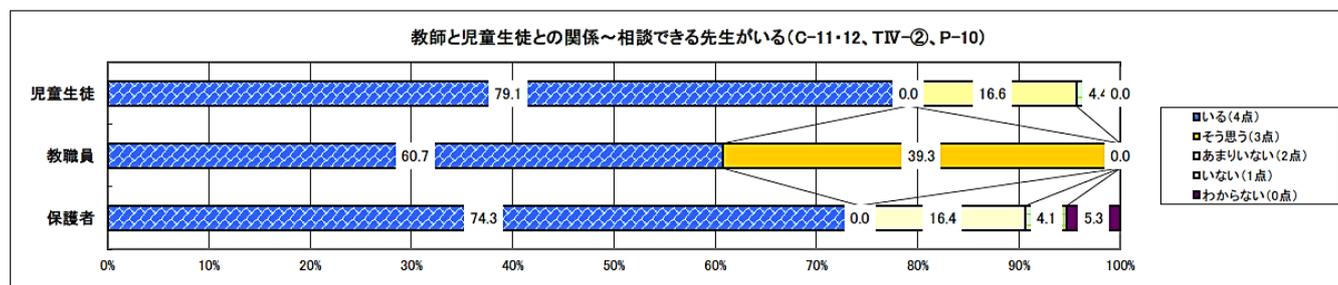
##### (1) 達成状況

生徒指導についての達成状況について、肯定的な意見の回答率は高くなっている。本校の教職員が、子供たちに寄り添い、きめ細かな児童理解の上で教育活動を行っていることがうかがえる。その成果は子供たちや保護者の意識にも表れており、「学校に相談できる先生がいる」という設問に対しても、昨年度よりも肯定的な意見の回答が高くなっている。

一方、設問3・4の回答が低くなっているところは、指導には取り組んでいるが、児童の様相になかなかよい結果に繋がっていないという思いがうかがえる。設問5の回答については、児童からの相談が増えたのに対し、対応する時間が足りないという実態からの評価となっている。

番号	IV 生徒指導について 質問内容	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	53.6	46.4	0.0	0.0	48.0	52.0	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	64.5	35.5	0.0	0.0	60.7	39.3	0.0	0.0
3	あなたは、児童生徒の規範意識をはくむ指導に取り組んでいる。	61.3	38.7	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0
4	あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	37.5	58.3	4.2	0.0	13.0	87.0	0.0	0.0
5	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	48.3	48.3	3.4	0.0	42.3	57.7	0.0	0.0
6	あなたは、「明るく元気な竜の子15か条」を意識して、生徒指導に取り組んでいる。	56.7	43.3	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

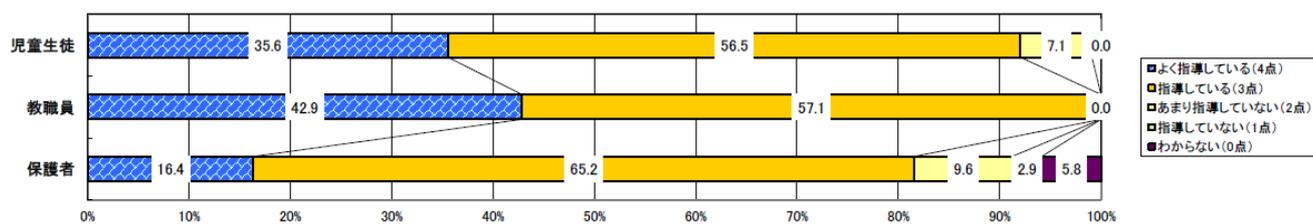
凡例  
 ←前年度よりAの回答率が上がっている項目  
 ←2年連続でAの回答率が下がっている項目



●児童保護者…相談できる先生がいる。 ●教職員…児童生徒とコミュニケーションをとっている。

本校が取り組む「学習規律」をはじめとする学びに向かう姿勢づくりについては、教職員一人一人が意識しながら取り組んできているが、昨年度、改善が必要であるという意見が出てきたことにより、毎月の生徒指導の提案で検討してきた。児童の考えも反映できるよう児童会でも取り組んできている。今後も継続していく。

規範意識の高揚～きまりや約束を守るように指導している(G-12・13、TIV-③、P-7)



児童と児童との良好な関係と規範意識の高揚は、どちらも学習指導上の基盤となるものであり、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が、確かな学力の育成には欠かせないものである。実際、各学級での指導は行われているが、児童の様子が多様化し、学校全体としての成果を実感しにくかったことが考えられる。今後も丁寧な指導を行うとともに、学級の子供たちや保護者にも理解が広がるよう、管理職や学級担任、生徒指導担当などが連携し、継続して取り組んでいく。

また、保護者アンケートで「学校は子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導をしていると思う」に対する回答は、昨年度より上がっている。これまで地域から挨拶が少ないことを指摘されている場面もあるので、生徒指導や児童会活動を軸に、家庭や地域の協力を得ながら、児童が主体的に取り組めるよう指導を重ねてきている。今後も家庭や地域に発信して、子どもたちを取り巻く環境を整えていく。

## (2) 改善策

- ① キャリア教育については、各教科、領域において、基礎的・汎用的能力の育成を位置づける必要がある。「キャリア教育」は、進路指導や職業教育だけでなく、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体を通して社会参画意識を高める教育活動を行っていくものである。日々の係活動や清掃活動も丁寧に取り組むほか、外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりするが、その都度、キャリア教育の一環であると、教職員が意識的に指導しているかどうかが重要となる。また、外部機関の方に学習活動に関わっていただく際、子どもたちがその姿や職種に憧れをもつ気持ちも育てるよい機会となっていることも意識して学習を仕組んでいく。なお、高等学校まで繋がる取組であるキャリアパスポートについては、効果的に学級活動の時間の中に取り入れ、夢や志をもって、子供たちがキャリアプランニングできる力の涵養にも継続して取り組んでいく。
- ② 子供たちの問題行動については、予防的な生徒指導に留まらず、日々の関係づくりの上で自己肯定感や自己有用感などを育てることにより、よりよい判断・行動ができる素地を育てていくことが大切である。児童が安心安全に登校できる環境を提供し続けるよう、児童の居場所のある学校・学級づくりに邁進していく。問題が生じた場合には、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。今回の早期発見の A 評価が下がったことには、アンケートでの気付きが多く、普段

の活動の中では見だしきれなかったことを評価したと考えられる。子どもたちが抱える課題が多様化・複雑化してきているからこそ、多くの目を見て変化に気づき、情報共有していくことを今後も充実させていく。また、児童とふれあう時間を確保するために、校務効率化に継続して取り組んでいく。なお、素早い対応ができるよう、これまで同様、SC や SSW、市の子育て支援課、県の児童相談所とも連携しながら、全教職員の共通理解のもと、学校全体として組織的に対応していく。

## V 地域との連携について

### (1) 達成状況

今年度は、外部と連携した多くの事業を以前のように実施しようと思直しを始めた。しかし、外部連携の在り方自体がわからないという若手教員が多いことが浮き彫りになった。学年主任がコロナ前を思い出しながら進めるには負担が大きいところもあったが、実際に進めてみて、地域の方や外部機関と連携することの意義を改めて認識することができた。これまで継続している保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守りについては手厚い協力を得ることができた。

学校の教育活動の発信については、肯定的な回答率は 100%であり、昨年度に引き続き高い回答率であった。学校開放の制限が解除され、運動会をはじめ、少しずつ来校の機会が増えたことで、実際に子どもたちの様子を見ていただけるようになってきている。学校だよりやホームページを通じた教育活動の発信も、地域や保護者に迅速、確実な情報発信を行い、説明責任を果たすことができていると考える。

「運動会」においては、本年度も PTA 本会役員、保体環境部の役員を中心として、積極的な協力を得ることができた。参観者については制限をなくしたが、マナーの問題など、あらたな課題が挙げられている。保護者からの意見をもとに検討を行い、来年度の運営に改善を加える予定である。令和 6 年度からはコミュニティ・スクールとなることを受け、「竜王小学校運営協議会」となる。地域や保護者の方々が学校運営に参画していただけることで、共通理解を深め、地域にある学校としてさらによい体制を整えていけると期待する。



番号	V 地域との連携について	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	38.7	54.8	6.5	0.0	29.6	59.3	7.4	3.7
2	あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	32.3	67.7	0.0	0.0	37.0	55.6	3.7	3.7
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	81.3	18.8	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	43.8	53.1	3.1	0.0	30.0	63.3	3.3	3.3
5	あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	65.6	34.4	0.0	0.0	46.7	53.3	0.0	0.0
6	あなたの学校は、地域協力者へ情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている。	61.3	38.7	0.0	0.0	51.7	44.8	3.4	0.0
凡例	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; background-color: #fff9c4; height: 20px;"></div> <div>←前年度よりAの回答率が上がっている項目</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; background-color: #e1f5fe; height: 20px;"></div> <div>←2年連続でAの回答率が下がっている項目</div> </div>								

## (2) 改善策

- ① 地域の教育力を生かす指導について、現在、教育課程を編成しながら、地域や外部機関の活用場面を再検討している。また、2～3学期にかけて、外部機関の協力を依頼した学習活動も試行してきた。子どもたちにとって充実した教育活動となるよう整えていく。また令和6年度からはコミュニティ・スクールであることを生かして、積極的に地域の教育力を取り入れていく。
- ② 学校からの情報発信については、今後も継続して学校だよりやホームページを積極的に活用していく。2年連続して保護者の肯定的な評価が上がっているのに対し、教職員の評価は下がっている。内容や運用について、改良を重ねる必要がある。また、本年度は、保護者への連絡手段として新たな安心メールシステムを導入した。加入率は100%である。安心メールとホームページを連携させることで、より効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていく。各種たよりをメールに添付して配信できるため、確実に保護者の手元に情報を届けることができている。ただし、紙ベースで見たいとの声もあり、必要に応じて使い分けていく。
- ③ PTA活動は、多くの会員が積極的に参加し、児童にとってよりよい学校にしていくことが大切である。今年度、PTA活動への保護者の参加意識は向上しているものの、PTA主催行事や地域と連携した取組について検討を進めていくことが求められる。今年度は参集での行事に戻すことができ、好評であった。これまでの実績を確実に引継ぎ、さらなる活性化を図っていく。



## VI 学校の特色に関して

### (1) 達成状況

どの設問においても、肯定的な回答は高いが、昨年度と比べて一つ一つの回答率をみると、全ての設問において、Aの値が低い傾向にある。読書習慣を身に付ける指導や子供たちが主体的に取り組む児童会活動、ICT機器の積極的に活用した授業実践は、本校の特色として継続して取り組んできている。本校の特色として意図して活動を取り入れることにより、特色ある活動を継続・発展させていく必要がある。

「児童会行事」への児童の主体的な取組は、コロナ禍の制限がなくなったことで、全校・学年・学級と、組織立った活動を充実させることができた。

ICT機器の普段使いは浸透している。より効果的な活用場面を増やす実践を重ね、学級間の格差を出さないように取り組んできた。学年やブロック全体で活用スキルを上げられるよう、校内研を軸に取り組むことができた。

番号	VI 学校の特色に関して	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	40.0	60.0	0.0	0.0	39.3	60.7	0.0	0.0
2	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	43.3	56.7	0.0	0.0	51.7	48.3	0.0	0.0
3	状況に応じて、日課表の見直しや時間割の工夫を行い、授業時数の確保に努めている。	51.9	48.1	0.0	0.0	51.7	44.8	3.4	0.0
4	教育機器（クロームブックなどのICT機器を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	51.9	44.4	3.7	0.0	41.4	58.6	0.0	0.0

凡例	<span style="background-color: #fff9c4; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>	←前年度よりAの回答率が上がっている項目
	<span style="background-color: #e1f5fe; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 100px; height: 15px;"></span>	←2年連続でAの回答率が下がっている項目

### (2) 改善策

① 今後も、校長が示す経営方針を教職員が共通理解し、学校の長所を伸ばし、短所を改善しながら学校の特色化を図っていくことが大切である。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導を継続できるようにしていく。

② 「読書活動」については、司書や図書館担当を中心に、児童が進んで本を手にする機会を増やそうと工夫を重ねてきている。各学級では、隙間時間には読書という習慣もついてきている。しかし、児童の回答で、家庭での読書に親しむ時間が減少してきている実態が把握できたので、家庭の協力も得ながら読書を愉しめるように取り組んでいく。



- ③ 児童会行事を豊かにすることと教科等の授業時間の確保の両立を改めて検討する必要がある。来年度、余剰時間が少なくなることを受け、内容の精選を図るとともに、異学年交流の場面をどう設定するか、検討する。

## Ⅶ 創甲斐教育について

### (1) 達成状況

「相手のよさを自分の言葉で表現する」取組について、「褒め言葉のシャワー」の取組を皮切りに、その後の方法を変えながら取り組んできている。各学級の取組から学年への取組に広げ、学年の雰囲気をつくってきた。また、低学年からの継続した取組により、お互いの認め合いが、学校全体の温かい雰囲気を醸成してきている。

設問3については設問の表現を変えることにより、保健だよりや給食だよりでは、家庭への啓発資料を含めるなど、工夫を重ねてきたことが評価できるようにした。保護者への指導資料としての役割も果たしていることが評価されている。

引き続き、学校全体として言語能力の向上、お互いに認め合いができる教育活動の推進、体力づくりの取組の充実ができるよう、教職員一丸となって取り組んでいく。

番号	Ⅶ 創甲斐教育について	令和4年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	様々な言語活動を通して、言語能力の向上に努めている。	53.3	46.7	0.0	0.0	37.0	63.0	0.0	0.0
2	学級活動において、相手のよさを自分の言葉で表現する取組を行っている。	46.7	53.3	0.0	0.0	30.8	69.2	0.0	0.0
3	おたよりの発行等を通し、体づくりや運動習慣づくりに家庭と連携して取り組んでいる。	19.4	71.0	6.5	3.2	42.9	57.1	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

### (2) 改善策

- ① 校内研でも効果的な言語活動の場面を設定した授業づくりに取り組んでいる。ICTの活用に意識が向くことで、本来求めてきた「様々な言語活動を通じた言語能力の向上」への取組が後退しないよう再確認をした。コロナ禍の中で採用された先生方にとってはICTの活用が軸となった授業研究が多かったため、今後、授業づくりに関して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、改めて実践を重ねていく。
- ② 相手のよさを自分の言葉で表現する活動を帰りの会を中心に行ってきた経緯がある。それを様々な活動の中で当たり前のように表現する子どもたちの姿を目指して取り組んでいる。そのために、学級活動の中で継続して取り組んでいくことが必要

である。学級から学年、学校全体へと認め合える文化を育てることを目指し、「ほめる」「ありがとうを伝える」といった具体的な日々の取組を、教職員も保護者も一体となって推進していく。

### 3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について	
成果	課題
◎学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営、教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAサイクルの実施と、教育課程の見直し、行事の取組に対する教職員の意識改革</li> <li>●学校体制で取り組む特別支援教育、多様化する児童のニーズに応じた合理的配慮</li> </ul>
II 学校運営について	
成果	課題
◎教職員一人一人の主體的な参画 ◎業務効率化による働き方改革への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「チームドラゴン」の在り方</li> <li>●危機管理マニュアルの的確な運用と改良、保護者への発信</li> <li>●校内研究とリンクした日々の授業改善、研究への主體的な関わり</li> </ul>
III 学習指導について	
成果	課題
◎「やまなしスタンダード」の定着、指導と評価の一体化を意識した授業の実施 ◎ICTを効果的に取り入れた授業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「個別最適な学び」「協働的な学び」を効果的に組み合わせた授業の実施</li> <li>●家庭と連携した主體的な学びの啓発</li> </ul>
IV 生徒指導	
成果	課題
◎児童に寄り添う生徒指導やきめ細かな児童理解に対する保護者、児童からの信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会参画意識を高めるキャリア教育の実施、キャリアプランニングできる力の育成、キャリアパスポートの効果的な活用</li> <li>●安心安全な学校・学級づくりの継続と、問題行動の早期発見・早期対応のための組織連携</li> </ul>
V 地域との連携	
成果	課題
◎学校だよりや学校ホームページによる迅速、確実な情報発信 ◎本会役員を中心としたPTA会員の積極的な協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域や外部機関の活用推進</li> <li>●安心メールと学校ホームページのより効果的な活用</li> <li>●PTA主催行事のさらなる活性化</li> </ul>
VI 学校の特徴	
成果	課題
◎児童が主體的に取り組む児童会活動 ◎ICTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の長所を伸ばし、短所を改善することによる教育活動の特色化</li> <li>●読書活動の継続と発展</li> <li>●教科等の授業時数確保と児童会行事の内容の再検討</li> </ul>
VII 創甲斐教育について	
成果	課題
◎よさの見とりをすすめる活動による、児童の温かい雰囲気醸成 ◎体づくりや運動習慣づくりの家庭への啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々な言語活動を通じた言語能力の向上</li> <li>●お互いのよさを認め合える関係性づくりの発展</li> </ul>

来年度以降も「チームドラゴン」として、特色ある、地域の学校としての役割を果たしていけるよう、保護者や地域と一体となり、全教職員一丸となって取り組んでいく。